

石川・富山・福井の蝶

嵯峨井 淳郎

1 はじめに

日本産蝶類のほぼ全種についてすでに卵・幼虫・蛹など幼生期の解明がなされ、日本における蝶類生活史研究の進捗は、いちじるしいものがある。

しかし、ここ北陸（石川・富山・福井）における蝶類の研究は、他の地域にくらべはるかに遅れており、筆者をはじめとして、百万石蝶談会々員諸志の優慮するところであった。

近年、種々の調査によりいくつかの新記録種の発見あるいは、幼生期における生活史探究、古い記録種の生息確認等により、いくらか先進県、先進同好会などに肩を並べるべく状況に至った。

当地方においては、まだまだ蝶類生活史研究途上で、知識水準に達せず時期早尚の懸念もあるが、ここに現在（1979年）までの北陸3県の蝶相の特徴と問題点ならびに分布目録を、種々の文献より抽出し、今後の活用に資することとした。

2. 概説

1979年現在、北陸産の蝶として、9科130種、8偶産種が記録されている。北陸3県を比較した場合、102種が共通種、残り28種が非共通種となり、後者については、表-1のとおりとなる。このうち、北陸3県内で比較した場合、石川県にのみ未記録種として、ヒサマツミドリシジミ、富山県にのみ未記録種として、ツマグロキチョウ、ホシチヤバネセセリがあげられ、福井県にのみ未記録種として、カラスシジミ、ヒメシジミ、ミヤマシジミ、アサマシジミ、エルタテハ、コヒオドリ、クモマバニヒカゲ、オオヒカゲ、ハリグロチヤバネセ

セリがあげられる。

石川・富山・福井の各々の蝶相、特徴、問題点等については、各々の項で概説する。

表-1

種名	石川	富山	福井	種名	石川	富山	福井
ミヤマキチョウ		○		アサギチョウ		○	
ツマグロキチョウ	○		○	エルトテハ	○	○	
クモツクキチョウ		○		ゴキオドシ	○	○	
ヒサミドリシジミ		○	○	ウラオミシジミ			○
カラスシジミ	○	○		クモバニヒカゲ	○	○	
オオゴマシジミ		○		タカネヒカゲ		○	
クロツバメシジミ			○	オオヒカゲ	○	○	
ヒメシジミ	○	○		ヒメヒカゲ			○
ミヤマシジミ	○	○		ヤマダラセセリ			○
アサマシジミ	○	○		ギンイモシジミ		○	
ゴキオドシ		○		タカネヤマダラセセリ		○	
ゴキウモン		○		ホシヤクセセリ	○		○
オオクワガタ			○	スジグロカバネセセリ		○	
オオクワガタ		○		ハリグロカバネセセリ	○	○	

3. 石川県の蝶相

本州のほぼ中央に位置する石川県には、日本列島ほぼ平行的傾向型の蝶が多く、他に北アルプスの蝶相に近似的の少数種を産するぐらいで、特徴がうすい。

隣県の富山県よりは数量的に記録が少く、福井県よりは記録が多い。

石川県には現在(1979年)、113種の蝶が記録され、他に5種の個産種(スジグロカバマダラ、カバマダラ、ナカサキアゲハ、アオダテハモドキ、クロコノマチョウ)が記録されている。

石川県の蝶の特徴としては、白山中富山県周辺に記録のある、アサマシジミ(= *Subsolanus togakusiensis* トガクシシジミ?) がオ1番目にあげられる。

雄翅表の発光鱗は灰白色がかった青味が強く、本産の *togakusiensis*、妙高産の *myokoensis* とは明らかに異なり、別亜種 *hakusanensis* としても良いくらいである。

その他、同じく白山中富山付近のヒメシジミの分布(松井・1977)

能登半島一帯におけるコムラサキ黒色型の分布(中川・大野・中居・1977)、白山山地帯におけるゴマシジミの分布(松井・1980)等があげられる。

分布限界種としては、アサマシジミ、コヒオドシ、クモマバニヒカゲが分布西南限として記録されている。

今後の問題種としては、ツマグロキチョウ、コヒオドシ、ムラサキシジミ、ムモンアカシジミ、カラスシジミ、ミヤマカラスシジミ、ミヤマシジミ、フタスジチョウ等があげられる。

問題種追求のため、石川県産蝶類発見手引書なるものが、1978年秋、松井正人の手により、リストアップされ、会内に配布し啓蒙をうながした。リストアップされたものは、次の種で6科2種類に及ぶ。

表-2

科名	種名
アゲハチョウ科	ギフチョウ、ウスバシロチョウ
シロチョウ科	ツマグロキチョウ
シジミチョウ科	ムラサキシジミ、ムモンアカシジミ オナガシジミ、メスアカヨドリシジミ ヒサマヨドリシジミ、カラスシジミ ミヤマカラスシジミ、クロシジミ ゴマシジミ、スギタニルリシジミ ヒメシジミ、ミヤマシジミ アサマシジミ、
タテハチョウ科	イルタテハ
ジャノウチョウ科	オオヒカゲ
セセリチョウ科	キバネセセリ、ホンチャバネセセリ ホンバセセリ

このうち、ヒメシジミは、金平永二(翔No8, 1979)、竹谷宏二(とっくりばち43号, 1979)により白山中宮にて再確認された。また、クロシジミ、スギタニルリシジミは吉村久貴により、金沢市犀川流域の寿津付近(翔No2, 1978・翔No2, 1979)が新産地として発表記載された。イルタテハは竹谷宏二(1979)により白山砂防新道にて、写真撮影され生息確認された。

4. 富山県の蝶相

富山県には現在(1979年)125種の蝶を産する。

富山県の蝶の特徴は、石川・福井両県産の蝶とは異なる大きな一つの特徴がある。それは、北アルプスを中心とした高山性の蝶が多数生息分布することである。

これらの高山性の蝶は、山岳中腹部～亜高山帯～高山帯にかけてクモマツマキチョウ、アサマシジミ、オオゴマシジミ、ミヤマモンキチョウ、バニヒカゲ、クモマバニヒカゲ、コヒオドシ、コヒョウモン、オオイチモンジ、タカネキマダラセセリ等が分布している。

その他の特徴として、常願寺川・黒部川流域等の河川敷のミヤマシジミの分布、朝日岳～僧ヶ岳～立山～五箇山にかけての山地帯におけるヒメシジミの分布、ほぼ県内全域に産すると見られるギフチョウの豊産、神通峡・宇奈月町等におけるヒサマツミドリシジミの分布、有峰・魚津市におけるギンイチモンジセセリの分布、高岡市石堤等におけるオオヒカゲの局地的分布等があげられる。

なお、確実性の低い記録しかなかったアサマシジミは、大野・嶺北(1977)・野中(1979)により立山山麓一帯に生息することを確認した。

つぎに問題種としては、ダム開発のため、有峰人造湖の湖底に沈んだ地域における絶滅種として、コヒョウモンモドキ、カラスシジミ、ミヤマカラスシジミがあげられる。

コヒョウモンモドキについては、過去の産地(湖底に沈んだ盆地)より5km程度しか離れていない地域(岐阜県神岡町大多利)にて多産するのを筆者が発見した(未発表)ことを付け加えておく。

その他、適応性の薄いつまぐろキチョウ、ヤマキチョウ、ヒメシロキチョウ、オオウラギンヒョウモン、ヒメギフチョウ、ヒョウモンチョウ、ヒョウモンモドキ、クロヒカゲモドキ等の確実性のない疑問種の記録もいくつかあるようである。

5. 福井県の蝶相

福井県の蝶も、ほぼ平均的傾向を示し、全体的に本州に普遍的な

種で構成され、種類数からみれば決して豊富とはいえないながらも、若干の分布限界種(表-3参照)を産する。

地理的に福井県は、生物分布境界線を東西に分け、日本海側での蝶類の分布考察する上で貴重な地域にあたる。その代表種として、オオムラサキ、ダイミョウセセリ等があげられる。

表-3. 分布限界種(福井)

種名	備考
キバリタテハ	本州・西限
ギンホシヨツメイ	〃・西限
ヤマジロウラシメ	日本海側・西南限
ウラナミシメ	〃・東北限

福井県には現在(1979年)、110種の蝶が記録され、他に4種類の偶産種(リュウキュウムラサキ、ヌジグロカバマダラ、ウスイロコノマチョウ)、5種類の疑問種(ヤマキチョウ、シルビアシジミ、フダヌジチョウ、アカセセリ、ヒョウモンチョウ)が記録されている。

福井県産蝶の特徴としては、小浜市上根来、百里ヶ岳のヒサマツミドリシジミの分布をはじめとして、石徹白川、竹田川流域におけるホシチャバネセセリの分布、石徹白川流域のチャマダラセセリの分布、打波川流域のキバネセセリの分布、丸根町~金津町にかけての奥越国境沿いの山地(竹田川流域)におけるゴマシジミ、カラスシジミの分布、竹田川流域、青葉山のムラサキシジミの分布、その他、全県下に広く分布するギフチョウ等があげられる。

問題種としては、武生市五分市におけるクロツバメシジミ(井崎, 1958)と敦賀市花城(西野, 1960)におけるヒメヒカゲがあげられ、前者、後者とも全国的にも分布の局限されるもので、その後全く発見を見ない種である。

また、奥越の山地帯にて時々採れる亜高山性のクジヤクチョウ、キバリタテハは、土着発生がどうかは明確でないといわれている。

6. 北陸産蝶類分布目録

1). 基礎資料

本目録の基礎となったものは、次の報告書等による。

- ア 福井県自然環境保全基礎調査報告書 (福井県、1976)
 イ 石川県の自然環境 (石川県、1978)
 ウ 富山県の昆虫 (富山県、1979)

2) 蝶の名称等

原則として「原色日本蝶類図鑑・全改訂新版」(保育社1976)に準拠し、科の所属や配列、科内の配列についても、この図鑑に従った。

3) 同定

石川県産については、百方石蝶談会々員が行い、標本確認種については●印、確実記録ながら標本未確認種については○印を付与した。富山・福井両県産のものについては記録確実種のみ●印とした。

その他個産種(迷蝶)については○印を付与した。

種名	石川	富山	福井	種名	石川	富山	福井
ギフチョウ	●	●	●	ミヤマカラスアゲハ	●	●	●
ヒメギフチョウ							
ウスバキチョウ				エゾヒメシロチョウ			
ヒメウスバシロチョウ				ヒメシロチョウ			
ウスバシロチョウ	●	●	●	モンキチョウ	●	●	●
アゲハ科				シロキチョウ		●	
ジヤコウアゲハ	●	●	●	ウラナミシロチョウ			
バニモンアゲハ				ウスキシロチョウ			
アオスジアゲハ	●	●	●	ヤマクロキチョウ	○		●
ミカドアゲハ				ホシホシキチョウ			
オナシアゲハ				キチョウ	●	●	●
キアゲハ	●	●	●	タイワンキチョウ			
アゲハ	●	●	●	ミヤマシロチョウ			
シロオビアゲハ				エゾシロチョウ			
モンキアゲハ	●	●	●	ヤマキチョウ			
クロアゲハ	●	●	●	エゾヤマキチョウ	●	●	●
オナガアゲハ	●	●	●	カワカミシロチョウ			
ナガサキアゲハ	○			ナミエシロチョウ			
カラスアゲハ	●	●	●	タイワンシロチョウ			
オキナワアゲハ							

種 名		石川	富山	福井	種 名	石川	富山	福井
シロ チヨ ウ科	ハニシロチヨウ				リンゴシジミ			
	イワヤキシロチヨウ				ベニモンカラシジミ			
	エノシシケロシロチヨウ	●	●	●	トラフシジミ	●	●	●
	スジケロシロチヨウ	●	●	●	キヌダライルハバ			
	タイワンモンシロチヨウ				コツバメ	●	●	●
	モンシロチヨウ	●	●	●	ベニシジミ	●	●	●
	チヨウセンシロチヨウ				ゴイシシジミ	●	●	●
	クマツマキチヨウ		●		クロシジミ	●	●	●
	ツマキチヨウ	●	●	●	ウラナミシジミ	●	●	●
	クロテンシロチヨウ				オシロシジミ			
ツマベニチヨウ				ウスアオオナガシジミ				
				ムラサキオナガシジミ				
				アマミウラナミシジミ				
シ ジ ミ チ ヨ ウ科	ルミスシジミ				ヒメウラナミシジミ			
	ムラサキシジミ	○	●	●	マルムネウラナミシジミ			
	ムラサキツバメ				イルリウラナミシジミ			
	ウラゴマダラシジミ	●	●	●	シロウラナミシジミ			
	チヨウロイカシジミ				ヤマトシジミ	●	●	●
	ウラキンシジミ	●	●	●	シルビアシジミ			
	ムネアサシジミ	○	●	●	ハマヤマトシジミ			
	ウラクロシジミ	●	●	●	ホリイロシジミ			
	アカシジミ	●	●	●	ソテツシジミ			
	ウラナミアカシジミ	●	●	●	カバヒロシジミ			
	オナガシジミ	●	●	●	タイワンクロボシシジミ			
	ウラミスシジミ	●	●	●	ウツキウツキホシシジミ			
	ミスイロオナガシジミ	●	●	●	ウツマウラボシシジミ			
	ウスイロオナガシジミ	●	●	●	オオイルシジミ			
	ミドリシジミ	●	●	●	オオゴマシジミ		●	
	アイヨドリシジミ	●	●	●	ゴマシジミ	●	●	●
	ウスアカミドリシジミ	●	●	●	ヤクマイルシジミ			
	ヒメヨドリシジミ		●	●	サマシジミ			
	キリマヨドリシジミ				タムシロイルシジミ			
	ウラシロヨドリシジミ				イルシジミ	●	●	●
	クロミドリシジミ				スギキイルシジミ	●	●	●
	エノヨドリシジミ	●	●	●	オガヤウラシジミ			
	オオヨドリシジミ	●	●	●	ゴイシツバメシジミ			
シヨウガンヨドリシジミ	●	●	●	ツバメシジミ	●	●	●	
ハヤヨドリシジミ				タイワンツバメシジミ				
ヒメアキヨドリシジミ				クロツバメシジミ			●	
アジヨドリシジミ	●	●	●	カラフトイルシジミ				
カラスシジミ	○	●		シヨウガンシジミ				
ミヤマカラスシジミ	○	●	●					

種名		石川	富山	福井	種名	石川	富山	福井
	ヒメジミ	●	●		タケノコマダラ			
	ミヤマジミ	○	●		カバタテハ			
	アヤマジミ	●	●		シロミスジ			
	ウツギンタジミ	●	●	●	ヤエヤマイチモンジ			
	テガヤク	●	●	●	アサイチモンジ	●	●	●
マダラ 科	カバマダラ	○			イチモンジクサウ	●	●	●
	スジグサカバマダラ	○		○	オオイチモンジ		●	
	オオカバマダラ				ジミスジ	●	●	●
	オオゴマダラ				リュウキウミスジ			
	アサギマダラ	●	●	●	ミスジクサウ	●	●	●
	タケノコアサギマダラ				ホニスジ	●	●	●
	リュウキウアサギマダラ				オオミスジ	●	●	●
	ミミコエマダラ				アサミスジクサウ		●	
	ウスエマダラ				タケノコクサウ	●	●	●
	コエマダラ				アサマダラ			
タテハ 科	ヒメアサギマダラ				カタテハ	●	●	●
	マルバネヒメマダラ				シータテハ	●	●	●
	アサキヒメマダラ				エリタテハ	●	●	●
	ヒメマダラ				ヒメオビクサウ	●	●	●
	ヒメアサギマダラ				キバヒメマダラ	●	●	●
	ヒメマダラ				ヒメタテハ	●	●	●
					クサウクサウ	●	●	●
					コヒメマダラ	○	●	
					ヒメアサギマダラ	●	●	●
					アサギマダラ	●	●	●
タテハ 科	ウスエマダラ				アサギマダラ	○		
	コヒメマダラ				タテハマダラ			
	ウスエマダラ				イサキコヒメ			
	コヒメマダラ				キオビコヒメ			
	ウスエマダラ	●	●	●	コヒメクサウ			
	コヒメマダラ	●	●	●	ヤエヤママダラ			
	ウスエマダラ	●	●	●	ウスエマダラ		○	
	コヒメマダラ	●	●	●	リュウキウマダラ			○
	ウスエマダラ	●	●	●	イサキクサウ			
	コヒメマダラ	●	●	●	スミナガシ	●	●	●
	ウスエマダラ	○	●	●	コムサキ	●	●	●
	コヒメマダラ	●	●	●	アサキクサウ			
	ウスエマダラ	●	●	●	アサキマダラ			
	コヒメマダラ	●	●	●	アサキクサウ	●	●	●
	ウスエマダラ	●	●	●	オオムサキ	●	●	●

種名	石川	富山	福井	種名	石川	富山	福井
ヒツシロミヅウシ	●	●	●	タノキミダラセセリ		●	
ウラミヅウシ			●	ホシヤハネセセリ	○		●
ヒツシロウラミヅウシ				コヤハネセセリ	●	●	●
アサギウラミヅウシ				スジグロヤハネセセリ		●	
ヤブヤマウラミヅウシ				ハリクログヤハネセセリ	●	●	
ハシヒガ	●	●	●	アカセセリ			
クモバハシヒガ	●	●		コヤマダラセセリ	●	●	●
ダイモンクハネヒガ				ヒキヤマダラセセリ	●	●	●
タカネヒガ		●		アヒナキダラセセリ			
シロノボ	●	●	●	キダラセセリ	●	●	●
ツバシロウラミヅウシ	●	●	●	ネノタアカセセリ			
ウラミヅウシ				クロボシセセリ			
ヒキヤマダラヒガ	●	●	●	ホシセセリ	●	●	●
キダラセトキ				オホヤハネセセリ	●	●	●
オホヒガ	●	●		ミヤマヤハネセセリ	●	●	●
シロビヒガ				ヤハネセセリ	●	●	●
クロヒガ	●	●	●	トガリヤハネセセリ			
ヒガノボ	●	●	●	オホサワラセセリ			
クロヒガセトキ				イモジセセリ	●	●	●
ヤブヤマダラヒガ	●	●	●	ヒキイモジセセリ			
サキヤマダラヒガ	●	●	●	ユヅセセリ			
ヒツシロ	●	●	●	クセセリ			
コシロ	●	●	●	オキセセリ			
シロビヒツシロ							
ヒツシロ			●				
クロコマノボ	○						
ウラノコマノボ		○	○				
ヒキヤマダラセセリ				アサギウシ科	11	11	11
ヤブヤマダラセセリ			●	セセリウシ科	15	17	15
ミヤマセセリ	●	●	●	シロウシ科	8	9	8
ダイモンクセセリ	●	●	●	シジミウシ科	34	36	32
コシロウシ科				ウツキウシ科	1	1	1
オキセセリ	●	●	●	カグサウシ科	1	1	1
アサハセセリ	●	●	●	マダラウシ科	1	1	1
タイワンアサハセセリ				タノキウシ科	29	33	28
オキヤビオキセセリ				シロウシ科	13	14	13
バナナセセリ							
ギンイモジセセリ		●		TOTAL	113	123	110
オホヤマダラセセリ				属産種	5	2	3

なお、本稿においては、ツラナミンジミ・アサギマダラ・ツマグロヒョウモンについては、食草・越冬問題等について、いろいろ議論のあるところであるが、一応、土着とみなし個産種に加えなかった。

そのほか、新たな知見、おもしろい種の記録問題など、まだまだ問題は山積みとなっているが、これらについては次の機会を待つこととする。

7. 今後の課題

北陸の蝶研究は過渡期に入った。

とさかく、蝶相は十分に解明されたとはいえない。

すでに蝶相が解明されつくしたと思われるが、確実な最近の記録(特に普通種といわれるもの)がほとんど発表されていないので、当然分布している種の記録がないものや、古い記録があるが、ここ10数年以上の未記録のものなどが散見される。

ただ、単に成虫採集のみに走ったり、古い記録ばかりに固執せずに、地質学的・植物学的見地から生態をつきつめれば前記事項も、おのずから解明されることになる。

8. あとがき

石川・富山・福井の蝶として、現在までの知見について、その分布、特徴点、問題点の概要を記したが、生態に関する点・植生に関する点等については、浅学の身ではいかんともしがたく、他の機会までの宿題としたい。

なお、本稿発表に際しては、富山県の昆虫並びに福井県自然環境基礎調査報告書を参考にしたことを重ねて注記しておく。

また、福井おしの会・長田勝氏並びに百万石蝶談会諸志の適切なアドバイスをいただいた。深く謝意を表します。

新 12

1980年 3月 10日

発行：金沢市三口新町 2-9-34 松井正人方
百万石蝶談会

編集：嵯峨井 海耶